

2026年1月15日

## ミラノデザインウィーク 2026「フォーリサローネ」に共同出展

龍村美術織物がインテリアブランド「CASA TATSUMURA」を発表

高島屋と龍村美術織物が協業して、ブレラ地区の会場に初出展



株式会社高島屋（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：村田善郎、以下「高島屋」）および、株式会社龍村美術織物（本社：京都市右京区、代表取締役社長 龍村育、以下「龍村美術織物」）は、イタリア・ミラノで開催される世界最大規模のデザインの祭典、ミラノデザインウィーク 2026 に開催される「フォーリサローネ」に初出展いたします。（出展期間：2026年4月21日～26日）

高島屋は1831年の創業以来、とりわけ呉服については主要事業の一つとして、普及・発展に寄与してまいりました。呉服催事や美術工芸品の販売・展示会を通じて、全国の産地・名匠とともに、きもの文化、伝統技術の未来への継承に取り組んでおります。

一方、龍村美術織物は1894年に織物業を創業し、古代織物の研究と復元、それを基盤としながら独自の美の探究テーマを持った「美術織物」という新しい分野を確立し、初代龍村平藏は「帯の意匠」制作にとらわれず、様々な「織物表現」を世に送り出し、現代の五代平藏まで、そのもののづくりの精神が引き継がれています。

そしてこの度、1927年に高島屋で「第1回錦帯作品展」を開催してから高島屋と龍村美術織物がともに手掛ける美術織物の最高峰を志すオリジナルブランド「龍村錦帯」（\*）が2027年に100周年を迎えるのを機に、新たに始動する龍村美術織物のインテリアブランド「CASA TATSUMURA」をミラノデザインウィーク 2026 に出展する運びとなりました。「日本が誇る染

織の未来のかたち」として、世界に向けて「CASA TATSUMURA」を発信するため、2026年～2028年まで3年にわたりミラノデザインウィークに共同出展を予定しております。

(\*) 龍村錦帯は1927年に初代・龍村平蔵が高島屋で、第1回錦帯作品展を開催したことに始まった高島屋オリジナルの帯で、美術織物の最高峰を志すブランドです。昭和、平成、令和と代々の平蔵と共に制作が継承されています。

## 高島屋と龍村美術織物との歴史

高島屋と龍村美術織物は、1927年に初代龍村平蔵と共に、第1回錦帯作品展を開催。その後、初代平蔵の呼びかけで染織上品會が始まり、各代の龍村平蔵襲名記念展覽会が高島屋で開かれるなど、現社長である五代龍村平蔵の時代に至るまで、約100年に亘り、互いを支え合う堅固な信頼関係が築かれました。

## 龍村美術織物について

初代から五代へ130余年、各代の龍村平蔵は「帯の意匠」制作にとらわれず、独自の美の探求テーマを持ち、美術織物の創作を行いました。

初代平蔵は正倉院宝物裂の復元を手がけ海外デザイナーをも魅了する唯一無二の技として評価され1954年にはクリスチャン・ディオールの依頼を受け名物裂など7点を制作、また後に日本画の大家となる若手図案家を積極的に採用。

二代平蔵は日本の国風文化、三代平蔵はシルクロード由来の工芸品、四代平蔵は和洋融合南蛮美術とガラス工芸を表現しました。そして2024年に五代平蔵を襲名した現社長龍村育は「和の躍動 和の解放」をコンセプトに、織物の領域を呉服に限定せず、生活空間に応用・転換を目指し、CASA TATSUMURA ブランドを始動します。



龍村錦帯「威毛錦（おどしげにしき）」

## ミラノデザインウィーク2026出展にあたっての監修（会場プラン、商品制作アドバイス等）

CASA TATSUMURA ブランドのスタートに際し、東京と富山の二拠点で活動する株式会社エイタブリッシュのクリエイティブディレクター川村明子氏を総合プロデューサーに起用しました。インテリアデザイナーとして活躍する川村氏は、今回デビューするCASA TATSUMURAの家具デザインも手がけます。

## ミラノデザインウィーク 2026 「フォーリサローネ」出展概要

出展：株式会社高島屋、株式会社龍村美術織物

出展期間：2026年4月21日～4月26日

会場: Maurizio Baldassari Showroom (マウリツィオバルダサーリショールーム)

所在地：Via Solferino, 14, 20121 Milano

現地運営：Westerlies Inc.

家具・照明器具制作：カリモク家具株式会社、株式会社ワイ・エス・エム

総合プロデュース・広報：株式会社エイタブリッッシュ

以上